



世界デジタル監視 フォーラムジャパン 2008

IPとインテリジェント 監視の融合が成長

日時 2008年10月22日(水曜日)

主催 A&S JAPAN

会場 東京ベルサール八重洲

協賛 アクシスコミュニケーションズ/インテル/ジャバテル/ケーティーワークショップ/
MOBOTIX JAPAN/パナソニック/PELCO/日本ビクター

2008年10月22日、東京のベルサール八重洲で、世界デジタル監視フォーラム(GDSF)ジャパンが開催された。セキュリティ監視カメラやレコーダメーカー、インテグレーターなどによる最新動向のセミナーセッションや、展示ブースでのデモンストレーションに、多くの参加者が真剣な眼差しを向けていた。本稿ではその概要を報告する。

世界デジタル監視フォーラムジャパン(Global Digital Surveillance Forum - Japan)は、IPカメラやNVR(ネットワークビデオレコーダ)メーカー、システム構築者などが、IPやインテリジェント監視の最新についてセミナーや展示を行うイベントである。主催は、本誌やWebサイトで世界中にセキュリティ情報を発信するA&Sグループだ。GDSFは2003年に台北で第1回が開催され、通算では台北で6回、中国では3回開催されているが、日本では今回が初めての開催となる。

日本開催第1回目のテーマは「IPとインテリジェント監視の融合で成長」だった。本テーマは、既存のセキュリティシステムに代わり今後どのようなシステムが有効であるかといった点についてフォーカスするものだ。とりわ

け日本は、他国よりもFTTHなどのIPネットワークインフラが整っており、ITインフラを活用したセキュリティシステムの動向は、各国が注目するところだ。また、こうしたセキュリティセミナーはこれまで日本では開催されていなかったため国内ユーザーの関心も高く、1日だけの開催にもかかわらず、セキュリティシステム構築者や設置施工業者、ITシステム構築者、エンドユーザーなど176名が参加した。

セミナーは「IP&インテリジェント監視システムの構築(トラックA)」と「ハイエンドアプリケーションの統合(トラックB)」という2つの分野を設定し、それぞれオープニングスピーチの後に各セッションが開催された。トラックAを担当したのは、パナソニック、MOBOTIX JAPAN、日本ビクター、PELCOの4社。また、清水建設

がオープニングスピーチを担当したトラックBでは、インテル、ケーティーワークショップ、ジャバテル、アクシスコミュニケーションズのセッションが開催された。トラックAのオープニングスピーチを担当したのは、A&Sグループ編集担当取締役ジョン・シー氏。同氏は「開催の目的は、セキュリティメーカーやシステム構築者、そしてユーザーが交流できるプラットフォームの提供だ」と語り、これまでそうしたプラットフォーム(場)がなかったことを指摘し、メーカーやユーザーといった垣根を越えて意見交換などをする場が、セキュリティ技術の向上と業界の進展に大切であるとコメントした。

また、会場にはコーヒーコーナーを兼ねた展示ルームが併設され、最新のセキュリティ関連製品のデモンス



トレーションやプレゼンテーションが展示され、熱心に質問を行うセミナー受講者などで、活況を呈していた。オープニングスピーチおよび各セッションの講演内容は別掲記事に譲るとして、本稿では、展示ブースを中心に解説する。

最新製品が紹介された 展示ブース

展示ブースでは、セミナーセッションを行うメーカーなど、国内外問わず9社の製品やソリューションが展示された。今回のイベントのテーマがIPとインテリジェント監視であることから、各社の展示も、ネットワークカメラやNVRなどが中心となった。

周知の通り、監視カメラシステムのアナログからデジタルへの流れは加速しており、従来のアナログシステムで

ネックとなっていた映像の高解像度化や遠隔監視の利用、インテリジェント化に対応したデジタルシステムが増えている。国産メーカーでは、主力メーカーであるパナソニックと日本ビクターが、監視カメラからレコーダまでを統合的に提供するシステムのデモンストレーションを行っていた。

パナソニックブースで展示されていたのは、同社の監視カメラやレコーダの「i-pro」シリーズ。1.3メガCCDやプログレッシブスキャンCCDなどを備えたネットワークカメラと、メガピクセルに対応した高性能レコーダによる高画質な映像のデモンストレーションを行っていた。パナソニックブースの展示担当者は「IP監視システムのメリットは、メガピクセルカメラを利用できることと、遠隔地からも映像を確認できること、また、セキュリティ以

外のマーケティングなどの用途にも利用できること」と語り、アナログシステムからの移行が進んでいるとコメントした。同氏によると、メガピクセルカメラの利用は、ワイドに撮影したいという状況で有効だそうだ。例えば、スーパーで複数の売り場を同時に監視したい場合や、セルフ式のガソリンスタンドで、不正を行う車のナンバーをチェックするといった利用方法がある。また、遠隔地から映像を確認できることは、コンビニエンスストアのフランチャイズ本部で各店舗の陳列状況をチェックしたり、ITマネジャーが自分のPC上で離れた監視カメラの映像を確認する目的などに利用されているそうだ。

また、日本ビクターは、同社のIPセキュリティシステムである「VANCS」を展示。メガピクセルカメラやNVR



を展示するとともに、タッチパネル方式のネットワークカメラビューワ「TX-N170RT」を展示していた。同製品は、タッチパネルモニタに専用のビューワソフトをインストールしたもので、PCを操作することなく、画面をタッチするだけで、複数カメラの映像を確認できるというもの。アナログシステムのモニタのように電源を入れてから10秒でモニタリングできると、電灯のスイッチを切るように一瞬で電源も切れるという特長があり、操作性や設置性の高さで人気があるそうだ。

パナソニックと日本ビクター以外では、海外メーカーの製品やシステムが展示されていた。アクシスコミュニケーションズは、同社の主力製品であるネットワークカメラを展示。MJPEGの2割、MPEG-4の半分のデータレートで高画質な映像を配信できる動画圧縮技術「H.264」に対応した固定ドームネットワークカメラ「AXIS P3301」などを使ったデモンストレーションを行っていた。ジャパテルは、複数の遠隔地に設置した監視カメラの映像をIPネットワーク経由で確認、管理できる「OMNICAST」ソリューションを展示。遠隔地の監視カメラ映像を携帯電話で表示するなどのデモンストレーションを行っていた。展示担当者によると「ホテルのオーナーが、ホテルのロビーの状況などを確認するのに使っている」とのことで、携帯電話のチケット代が定額制となったこともあり、携帯電話で映像を確認するといった利用も増えているそうだ。

ケーティーワークショップでは、世界35,000社で使用されているというMilestoneのIP監視カメラシステム「XProtect」や、1台のPCで最大500のドアを管理できるというPaxton Accessの入退室管理システム「Net2」を展示していた。XProtectは、監視カメラを接続するサーバーを無制限にシステムに接続できることで、台数の制限なくカメラが接続可能な特長がある。展示担当者によると、「国内では1現場あたり700台、海外では1500台のカメラを接続している例もある」とのこと。国内メーカーの日本ビクターが同社のソフトウェアをNVRに利用している例もあり、信頼性も高いようだ。

しかしIPネットワークを利用した監視カメラシステムには、メリットだけではなく、いくつかのデメリットもある。例えば、映像の遅延や途切れなどだ。そのデメリットを解消するために、MOBOTIX JAPANでは、新しいコンセプトのネットワークカメラを展示していた。カメラ本体側で映像のデジタル変換を行い、カメラ側にメモリによるバッファを持つことで、リアルタイムのネットワーク回線を不要とし、たとえネットワークが瞬断したり遅延が生じたとしても、映像を途切れなくようにしたものだ。動画コーデックには、一般のコーデックに比べ、ネットワーク帯域幅を1/3に軽減できるという独自開発の「MxPEG」を採用している。また、一見カメラとはわからないようなドームカメラ「Q22M」と、魚眼レンズの歪みをデジタル補正するコントローラも展示していた。Q22M

は、病院や高級ホテルなど、カメラの存在を隠したい場所などで利用されているという。管理ソフトウェアを無料でダウンロードできる特長もあり、ユーザーインターフェースを簡易にした「MxEasy」をリリースする予定とのこと。

また、今年、日本に営業拠点を設置し、日本での営業活動に本格的に参入したPELCOは、同社の製品ラインアップについて展示するとともに、日本での営業、マーケティングや技術サポートを担当するクロケットインターナショナルが、今後の戦略について、セミナー受講者に説明を行っていた。同社は、IPベースのカメラやシステムだけでなく、アナログのカメラやシステムも提供しており、アナログとデジタルを統合させたハイブリッドシステムの普及にも力を入れている。紹介されていた海外の事例などに、参加者からは活発に質問が寄せられていた。

受講証で使用した 入退システム

セキュリティ監視システムという、監視カメラやレコーダが目玉されがちだが、入退管理に利用されるICカードやゲートも無視できない存在である。今回のGDSF JAPANで参加者に配った受講証は、ダグ・ジャパンとニッケンハードウェアの協力によって作成したもので、両社の展示ブースで紹介が行われていた。

受講証にはRFIDタグが埋め込まれ、セミナー会場の入り口に設置されたゲートをくぐるとそのIDが記録される



仕組みだ。読取機に受講証をかざす必要がなく、ゲートをくぐるだけで、一度に複数のタグを読み取ることができる。同社によると、すでに海外の大学図書館やスキー場などで利用されているという。

そして受講証の表面に氏名や受講番号などを記載するシールを作成したのがニッケンハードウェアだ。同社の「ぴたっとカード」では、一般のプリンターで印刷可能な特殊なシールシートを用いることで、100万円以上するカードプリンターを購入する必要をなくし、表面のシール貼り替えにより、高価なカードを無駄にすることもないという。シールの材質やカードにシールを貼る器具にも工夫がされており、気泡やずれの心配なく、誰でも簡単に作成できることで、参加者の注目を集めていた。同社の展示担当者は、「一般企業でも年間1割程度の異動があり、工場では月に何百人規模になることもある。その都度業者に発注するのは時間的にもコスト的にも無駄もあり、セキュリティの問題もあった。この製品はそうした問題を解決するものだ」と語った。

オープンにしづらい業界だからこそ意義がある

セキュリティ関係のイベントや展示会はこれまでも日本で開催されていたが、あまり専門的な内容ではなかったり、各メーカーが

個別に開催していて他社の情報を得づらいものだったりするものが中心だった。その理由として、セキュリティはその内容をあまりオープンにはできないという性格があるからだ。このため、ユーザーがそれぞれのセキュリティシステムに関して、客観的で具体的な運用上の情報などを得るには、専門雑誌を参考にするか、独自に情報収集を行う必要があった。今回のイベントは、そうしたユーザーの不満を解消するものとなったようだ。

空港関連のセキュリティ保守に携わる参加者の話を聞いた。「これまでセキュリティシステムに関して、各メーカーに個別にデモンストレーションに来てもらい、導入、運用していたが、それだけでは情報に偏りがあった。単なる技術スペックだけでなく、実際に保守のしやすいシステムも選ぶ必要があり、その情報収集をするために参加した。今回のイベントは、予想以上に勉強になった。来年も開催するのであればぜひ参加したい」。参加者の多くは、自社のセキュリティ事情のことはあまり明かしたくないが、技術情報や最新情報を得たいと思っているようだ。そうした参加者にとって、興味のあるセミナーを受講し、製品やソリューションを一覧でき、自由に質問できる展示は、有意義なものであったに違いない。■

GDSF Japanについて

開催趣旨：

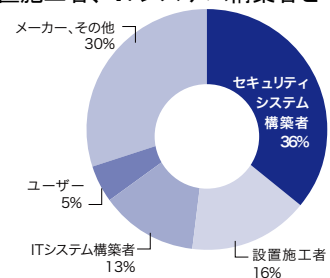
- ・IP監視システム関連の技術開発、市場および導入事例などの流れの解説
- ・ITとセキュリティ産業の間での効果的な交流の拡大
- ・市場でのインテリジェント監視の営業
- ・セキュリティにとどまらない監視システム導入の拡大

2008規模：

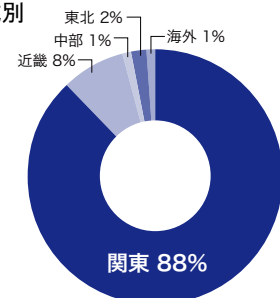
- セミナーおよび展示コーナー
- ・2トラック、10 セミナーセッション
- ・10 社の展示

聴講者の分析：

- ・聴講者の70%はセキュリティシステム構築者、設置施工者、ITシステム構築者とユーザー



・聴講者の地域別



GDSF JAPAN 2009:

東京で 2009年11月開催予定！

IPとインテリジェントによる監視に触れることができるセキュリティ専門セミナー！